教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 教授　　氏名： 松本　裕史

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ心理学、健康心理学、健康行動科学	身体活動、動機づけ、行動変容、健康教育
学位	最終学歴
博士（人間科学）	早稲田大学大学院 人間科学研究科 健康科学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.特色ある教育方法の実践例	2024年	実践的な学びを通じて課題解決力を育成するPBL（Project-Based Learning）授業として、大手スポーツ企業の協力のもと、若年女性の運動・身体活動支援の取り組みを行った。学生らは企業に対して自らのアイデアをプレゼンテーションし、仮説設定スキルおよび問題解決スキルを向上させた。
2.特色ある教育方法の実践例	2023年	学生のアントレプレナーシップ育成を目的として、学生ビジネスコンテストに参加した。ビジネスプラン申請書を作成する過程から、問題発見能力、仮説検証能力、文章力の向上が見られた。結果として、ゼミ生6名で提案したプランが最優秀賞に輝いた。現在、プランの商品化に取り組んでいる。
3.特色ある教育方法の実践例	2022年	学生のアントレプレナーシップ育成を目的として、学生ビジネスコンテストに参加した。ビジネスアイデア申請書を作成する過程から、問題発見能力、仮説検証能力、文章力の向上が見られた。結果として、1名が最優秀賞に輝いた。最優秀賞受賞者はプレゼンテーション能力の向上が認められた。
4.特色ある教育方法の実践例	2021年	学生のアントレプレナーシップ育成を目的として、学生ビジネスコンテストに参加した。ビジネスアイデア申請書を作成する過程から、問題発見能力、仮説検証能力、文章力の向上が見られた。結果として、2名が優秀賞に輝いた。
5.遠隔授業における動機づけ支援の実践例	2020年～現在	遠隔授業での主体的で能動的な学びを促進することを目的として、チャットボックスやブレイクアウトルームの積極的な活用を行っている。学生は、チャットボックスの効果的な利用方法を学ぶことで積極的な授業参加へつながっている。
6.特色ある教育方法の実践例	2020年～現在	毎回の授業においてグーグルフォームによるコミュニケーションペーパーの提出を課して、能動的な学びを促進した。学生のコメントを紹介し、フィードバックすることで双方向授業の実現に取り組んでいる。
7.特色ある教育方法の実践例	2020年～現在	ゼミを通じた国際人材の育成を目的として、Zoomを通じて、カナダ　モントリオールを大学の学生との国際交流活動を行っている。
8.学生の国際貢献活動の推進	2017年～現在	フィリピンの国際協力NPOの協力を得て、セブ島の貧困地域に住む子どもたちに対して、音楽教育とスポーツ指導を通じた国際貢献活動を実施した。学生は海外スポーツボランティアとして、ダンス指導やスポーツ指導を行った。
9.学生の授業外における学習促進のための取り組みおよび双方向授業の実践例	2017年～現在	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部で開講した専門科目「健康・行動科学演習」において、マインドマップを使った相互解説、プレゼンテーションを実施し、学生の能動的な学習を促進した。
10.特色ある教育方法の実践例	2016年2月	武庫川女子大学 日下/フォッシーン国際交換教授職基金プログラムの特別教授として運動心理学のトピックをEastern Washington University (USA)の大学生、大学院生、一般市民対象で英語にて講義を行った。
11.特色ある教育方法の実践例	2015年～現在	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部で開講した専門科目「健康・スポーツ科学演習」において、毎回英語

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		によるGood & Newを実施し、学生の英語運用能力向上を促進した。また、外国からの訪問研究者をゲストスピーカーとして招き、英語によるディスカッションを行った。
12.学生の社会貢献活動の推進	2012年	震災および震災遺児関連のチャリティーウォーキングイベントのボランティア参加を授業で呼びかけ、希望者が参加した。イベントの運営や一般参加者とのコミュニケーションから学生は多くのことを学んだ。
13.ゼミ学生の他大学とのコラボレーション活動	2010年～現在	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部で開講した専門科目「健康・スポーツ科学演習」において、有馬温泉観光協会、近畿大学、神戸芸術工科大学および大阪音楽大学と共同で、「有馬温泉ゆけむり大学」を実施した。松本ゼミ学生はスポーツイベントを企画、運営し、授業で学んでいることを実践する能力を身につけた。また、2018年より関西大学安田ゼミとコラボレーションを行い、プロジェクトアドベンチャーを活用した授業を行った。
14.学生の授業外における学習促進のための取り組み	2010年～現在	予習レポートおよび復習レポートを課し、提出者には加点した。グループによる課題を出し、次週の授業内で発表させた。授業終了時に具体的な学習内容とそれを復習するためのおすすめの参考図書を紹介した。授業内テストを実施し、科目の評価に含めた。
15.双方向授業の実践例	2010年～現在	学生の積極的な授業参加を促すため、小道具（クッシュボール）を使用した。
16.学生の授業外における学習促進のための取り組み	2010年～2016年	授業に関するアンケートを教材として使用し、学生の統計データ分析課題とした。
17.特色ある教育方法の実践例	2005年～現在	授業時に穴あきプリントを配布し、そのプリントは学生の集中力向上に貢献した。
18.特色ある教育方法の実践例	2005年～現在	授業開始時に、本時限で学ぶ内容の概要を示し、学生に授業の見通しを立たせた。前回の復習のための毎時授業開始時に小テストを実施した。
2 作成した教科書、教材		
1.健康行動科学演習テキスト 2.健康科学Ⅰテキスト 3.スポーツ心理学テキスト		健康行動科学演習テキスト（朝倉書店）を作成した。 授業用テキストを作成した。 スポーツ心理学テキスト（大修館書店、ミネルヴァ書房、杏林書院、嵯峨野書院）を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.2024年度 日本セーリング連盟　コーチIII講習会	2024年	主催　日本セーリング連盟 一般市民を対象に、「選手のモチベーションとコーチング」と題して講義を行った。
2.ミズノ株式会社　技術顧問	2023年～現在	ミズノ株式会社のサービスおよび商品開発に関するアドバイザーを務めた。
3.いきいき堺市民大学　講師	2023年～現在	主催　堺市社会福祉協議会 一般市民を対象に、「あなたの知らない心理学」シリーズ「動機づけ心理学」と題して講義を行った。
4.みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社　アドバイザー	2022年	特定健診・保健指導の効果的な実施方法に係る実証事業に関するアドバイザーを務めた。
5.西宮市市民対象講座　講師	2019年	主催　西宮市大学交流協議会 一般市民を対象に、「パフォーマンス発揮のためのスポーツ心理学」と題して4回セミナーを行った。
6.介護予防運動スペシャリスト養成講習会　講師	2018年～現在	主催　日本スポーツクラブ協会 一般市民を対象に、「中高老年期の健康行動変容」と題して講義を行った。
7.三菱電機ライフサービス　全体研修　講師	2018年	主催　三菱電機ライフサービス 三菱電機健康保険組合の管理栄養士を対象に、「行動変容につなげる保健指導」と題して講義を行った。
8.平成29年度セーリング連盟　公認コーチ講習会	2018年	主催　日本セーリング連盟 一般市民を対象に、「メンタルコンディショニング」と題して講義を行った。
9.スポーツリーダー養成講習会　講師	2017年～2020年	主催　兵庫県体育協会

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
10.健康運動実践指導者養成講習会　講師	2016年～現在	一般市民を対象に、「ジュニア期のスポーツ」と題して講義を行った。 主催　健康・体力づくり事業財団
11.西宮市生涯体育大学　講師	2016年	一般市民を対象に、「運動指導の心理学的基礎」と題して講義を行った。 主催　西宮市教育委員会
12.震災遺児支援チャリティーノルディックウォーキング　講師	2012年	一般市民を対象に、「運動・身体活動の効果とノルディックウォーキング」と題して講義と実習を行った。 主催　武庫川女子大学 一般市民を対象に、ノルディックウォーキングの実技指導を行った。
13.西宮市生涯体育大学　講師	2012年	主催　西宮市教育委員会 一般市民を対象に、「運動・身体活動の効果とノルディックウォーキング」と題して講義と実習を行った。
14.健康増進講座 講師	2012年	主催　大阪市立いきいきエイジングセンター 一般市民を対象に、「中高年者の健康増進について」と題して講演を行った。
15.YMCAワイズメンズクラブ例会　講師	2011年	主催　YMCAワイズメンズクラブ河内 一般市民を対象に、「運動・身体活動の効果とノルディックウォーキング」と題して講演を行った。
16.第2回ノルディックウォーキング講座 講師	2010年	主催　武庫川女子大学 一般市民を対象に、ノルディックウォーキングの実技指導を行った。
17.健康増進事業健康講座 講師	2010年	主催　泉佐野市健康福祉部 一般市民を対象に、「健康増進の講義とウォーキングの実技指導」と題して講義と実習を行った。
18.西宮市民対象講座「インターカレッジ西宮」講師	2010年	主催　西宮市大学交流センター 西宮市民を対象に、「運動・身体活動の効果とその継続」と題して講義を行った。
19.ダイハツ販売会社新任代表者・新任取締役研修会　講師	2010年	主催　ダイハツ工業株式会社 取締役を対象に、「人の行動を変えるヒント―健康行動科学の視点から―」と題して講演を行った。
20.YMCAワイズメンズクラブ例会　講師	2010年	主催　YMCAワイズメンズクラブ土佐掘 一般市民を対象に、「運動・身体活動の効果とノルディックウォーキング」と題して講演を行った。
21.平成20年度西宮市スポーツリーダー研修会	2009年	主催　西宮市教育委員会 スポーツ・運動指導者を対象に、「ノルディックウォーキングの講義と実技」と題して講義と実技指導を行った。
22.第1回ノルディックウォーキング研修会 講師	2009年	主催　日高町商工会 一般市民を対象に、「健康増進教室およびノルディックウォーキングの講義と実技」と題して講義と実技指導を行った。
23.第2回ノルディックウォーキング研修会 講師	2009年	主催　神鍋・日高町観光協会 一般市民を対象に、「ノルディックウォーキング講座」と題して実技指導を行った。
24.平成18年度青・壮年体力つくり指導者講習会 講師	2007年	主催　（財）健康・体力づくり事業財団 スポーツ・運動指導者を対象に、「運動を始める人への支援―その気にさせる行動変容のテクニック―」と題して講義と実習を行った。
25.平成18年度兵庫県健康づくり運動指導者育成研修会　講師	2007年	主催　（財）兵庫県健康財団 保健師、運動指導者を対象に、「実践・継続できる運動指導―運動における行動変容とその評価―」と題して講義と実習を行った。
26.平成19年度兵庫県明石市栄養士会総会記念講演	2007年	主催　明石栄養士会 栄養士を対象に、「実践・継続できる運動指導―運動における行動変容のテクニック―」と題して講義と実習を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
27.平成19年度ひょうご講座 講師	2007年	主催　ひょうご大学連携事業推進機構 一般市民を対象に、「健康管理を考える（3）運動・身体活動の効果とその継続」と題して講義を行った。
4 その他		
1.キャリアセンター常任委員	2023年～	
2.薙刀部部長	2023年～	
3.授業改善奨励賞（「より良い授業方法の工夫と実践」表彰）	2022年	
4.教育改善・改革プラン表彰（「海外スポーツボランティアプログラムの開発」）	2020年	
5.学生部常任委員	2019年～2023年	
6.授業改善奨励賞（「より良い授業方法の工夫と実践」表彰）	2019年	
7.ウィンドサーフィン同好会顧問	2018年～2023年	
8.授業改善奨励賞（「より良い授業方法の工夫と実践」表彰）	2018年	
9.授業改善奨励賞（「より良い授業方法の工夫と実践」表彰）	2017年	
10.教務委員	2015年～2019年	
11.広報入試委員	2010年～2013年	
12.中高大一貫教員推進委員	2010年～2011年	
13.FD刊行物編集委員	2010年～2011年	
14.環境保全教育エコロサイズ部会長	2008年～2014年	
15.FD推進委員	2008年～2010年	
16.学生委員	2007年～2010年	
17.カヌー部副部長	2005年～2016年	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.ライプチヒ大学公認コオーディネーショントレーナー	2019年3月～2021年9月	
2.認定心理士	2017年～	
3.マインドマップアドバンスプラクテショナー	2017年～	
4.日本ノルディックフィットネス協会認定アドバンス・インストラクター	2009年～2013年	
5.日本赤十字社救急法救急員	2005年～	
6.メンタルトレーニング指導士補	2002年～2006年	
7.健康運動指導士	2000年～	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.健康とスポーツの心理学	共	2024年	嵯峨野書院	田中 美吏・松本 裕史 編著
2.これから学ぶスポーツ心理学三訂版	共	2023年	大修館書店	荒木雅信・山本真史編著. 担当部分「スポーツにおける動機づけ（56-65頁）」，「健康増進を目的とした身体活動・運動の参加と継続（142-150頁）」を担当執筆した.
3.健康心理学事典	共	2019年	丸善出版	日本健康心理学会編著. 本稿では，「動機・欲求（104-105頁）」，「身体活動（運動・スポーツ）（196－197頁）」を担当執筆した.
4.これから学ぶスポーツ心理学改訂版	共	2018年	大修館書店	荒木雅信編著. 担当部分「内発的動機づけと外発的動機づけ（37-43頁）」，「目標

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				設定と動機づけ（44-49頁）」，「健康増進を目的とした身体活動・運動の参加と継続（124-132頁）」を担当執筆した．
5.スポーツモチベーション	共	2013年	大修館書店	西田　保編著． 本稿では，「健康スポーツの動機づけ（69－84頁）」を担当執筆した．身体活動の規定因，行動変容と動機づけ，動機づけの介入実践について解説した．
6.キーワード動機づけ心理学	共	2012年	金子書房	上淵　寿編 本稿では，「身体活動の開始と継続（217－225頁）」を担当執筆した．トランスセオレティカル・モデルを用いた身体活動介入，行動変容技法を用いた介入法，自己決定理論を用いた介入について解説した．
7.現場で活きるスポーツ心理学	共	2012年	杏林書院	石井源信・楠本恭久・阿江美恵子編著． 本稿では，「自己決定理論（24-26頁）」，「健康運動の継続に関する研究（33-35頁）」，「健康運動の実際場面への動機づけの適用（38-39頁）」を担当執筆した．近年運動・身体活動の分野で注目を集める自己決定理論を解説し，その適用に関する先行研究のまとめと実践研究を紹介した．
8.よくわかるスポーツ心理学	共	2012年	ミネルヴァ書房	中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著． 本稿では，「運動行動の変容―トランスセオレティカル・モデル（118-119頁）」，「運動行動の促進―運動実践への介入（120-123頁）」，「運動実践と環境―運動の継続を支える社会的文脈要因（124-125頁）」を担当執筆した．トランスセオレティカル・モデルを用いた身体活動介入，行動変容技法を用いた介入法を解説した．
9.朝倉実践心理学講座　運動と健康の心理学	共	2012年	朝倉書店	竹中晃二編著． 本稿では，「3章　運動実践に果たす動機づけ理論（28-40頁）」，「中高年女性に対する動機づけ段階に応じた運動行動変容プログラム（129-133頁）」，「自己決定理論の実践的適用（134-135頁）」を担当執筆した．近年運動・身体活動の分野で注目を集める自己決定理論を解説し，その適用に関する先行研究のまとめと実践研究を紹介した．
10.これから学ぶスポーツ心理学	共	2011年	大修館書店	荒木雅信編著． 本稿では，「1部5章　内発的動機づけと外発的動機づけ（36-42頁）」，「1部6章　目標設定と動機づけ（43-48頁）」，「3部4章　健康増進を目的とした身体活動・運動の参加と継続（129-137頁）」を担当執筆した．スポーツ，運動に関する動機づけ，目標設定を解説した．健康増進を目的とした身体活動・運動の参加と継続に関して解説した．
11.消費エネルギー測定法，活動量計法，心拍数計法(スポーツ心理学事典)	単	2008年	大修館書店	日本スポーツ心理学会編著．
12.自己決定理論（スポーツ心理学事典）	単	2008年	大修館書店	日本スポーツ心理学会編著．
13.内発的動機づけ（スポーツ心理学事典）	単	2008年	大修館書店	日本スポーツ心理学会編著．
14.身体活動と行動医学―アクティブライフスタイルをめざして―	共	2000年	北大路書房	JF. Sallis and N. Owen.（編著）竹中晃二（監訳）
15.身体活動・運動と行動変容 ―始める，続ける，逆戻りを予防する―　現代のエスプリ	共		至文堂	竹中晃二編
16.身体活動の増強および運動継続のための行動変容マニュアル	共		ブックハウスHD	竹中晃二編
2 学位論文				
1.自己決定理論を用い	単	2004年03月	早稲田大学大学院	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
た運動継続の予測と説明			人間科学研究科博士論文	
2.運動行動の動機づけに関する研究 ―自己決定理論の応用―	単	2001年03月	早稲田大学大学院人間科学研究科修士論文	
3 学術論文				
1.学生の包括的ヘルスリテラシーが食行動に与える影響: パス解析による因果モデルの検証（査読付）	共	2025年(in press)	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一
2.女性における未就学児の養育が定期的運動実施に及ぼす影響－心理社会的要因に注目して－（査読付）	共	2025年(in press)	スポーツ産業学研究	松本 裕史・田中 美吏
3.若年女性の階段利用を促進する投票形式プロンプトの効果（査読付）	単	2024年	武庫川女子大学紀要	松本裕史
4.若い世代向け包括的ヘルスリテラシー尺度CHLSY-27の開発（査読付）	共	2024年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・中臺桂林
5.女子学生の食の嗜好性と食行動・食品群摂取状況との関連―2年間の縦断調査結果の分析から―（査読付）	共	2024年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一
6.Psychometric properties of the controlling coach behaviors scale for Japanese athletes （査読付）	共	2023年	Asian Journal of Sport and Exercise Psychology	Hiroshi Matsumoto, Kunio Kono, Takayuki Shibukura and Kimberley J. Bartholomew
7.調理技術の自己評価の向上が女子学生の栄養素等摂取状況に及ぼす影響－1年間の縦断調査結果に基づく解析－（査読付）	共	2023年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行・丸田穂花
8.男子学生の喫煙行動と喫煙に対する恩恵・負担の認識との関連（査読付）	共	2022年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行・丸田穂花
9.若年女性におけるナッジを用いた階段利用促進：環境保全メッセージは有効か？（査読付）	単	2022年	体育学研究	松本裕史
10.Correlation between changes in drinking behavior of female university students and pros/cons of alcohol	共	2022年	Health and Behavior Sciences	Junichi Kasamaki, Kunio Miyashita, Yoshiko Kasahara, Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida, Takayuki Shibukura

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
intake: A 2-year longitudinal study（査読付）				
11.Relationship Between Basic Psychological Needs and Exercise Motivation in Japanese Adults: An Application of Self-Determination Theory（査読付）	共	2022年	Japanese Psychological Research	Hiroshi Matsumoto and Koji Takenaka
12.A Revised Self-Determined Motivation Scale for Exercise with Integrated Regulation Inclusion（査読付）	共	2021年	Journal of Health Psychology Research	Hiroshi Matsumoto, Ayano Taniguchi and Junichi Nishida
13.女子大学生の間食行動と心理的ストレスとの関連―1年次から3年次にわたる縦断調査による検討―（査読付）	共	2021年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行
14.高校卒業後の学生にみられる栄養素等摂取状況の変化に影響する要因～食習慣の変化と一人暮らしの期間に焦点を当てて～（査読付）	共	2020年	日本衛生学雑誌	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行
15.スポーツ指導者の統制的行動が女子大学スポーツ選手の動機づけに及ぼす影響（査読付）	共	2020年	スポーツ心理学研究	戸山彩奈・松本裕史・渋倉崇行・幸野邦男
16.自律性を支援する運動動機づけアプローチ	単	2019年	未病システム学会誌	松本裕史
17.女子学生の栄養摂取状況に影響を及ぼす居住形態と食行動～1年間の縦断調査結果の分析から～（査読付）	共	2019年	Health and Behavior Sciences	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行
18.Validation of the stages of exercise behavior change with low, moderate, and vigorous physical activity behavior in young Japanese women（査読付）	共	2018年	Mukogawa Journal of Health and Exercise Science	Hiroshi Matsumoto and Shigehiro Tanaka
19.学生の栄養摂取状況に関連する要因の解明―性別と居住形態に焦点を当てて―	共	2018年	日本衛生学雑誌	笠巻純一・宮西邦夫・笠原賀子・松本裕史・西田順一・渋倉崇行

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
（査読付）				
20.健康・スポーツ系学生を対象とした予習レポートによる授業改善の工夫―WEBアンケートによる評価を活用して―（査読付）	共	2017年	武庫川女子大学情報教育研究センター紀要	松本裕史・戸山彩奈
21.大学授業における予習としてのマインドマップの活用（査読付）	共	2017年	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	松本裕史・戸山彩奈・加治由佳子
22.バディシステムを用いたスキー実習が女子大学生の社会的スキルに及ぼす影響：問題解決因子およびコミュニケーション因子の変化に着目して（査読付）	共	2016年	健康運動科学	松本裕史・中西匠・西田順一・柳敏晴
23.バディシステムを活用したスキー指導が女子学生のスキー技術の向上に及ぼす効果―協同学習の視点からの考察―（査読付）	共	2016年	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	松本裕史・中西匠
24.途上国におけるスポーツ活動を通じたライフスキル教育プログラムの作成：セブ市の教育的課題と育成の対象とする心理社会的スキルの特定（査読付）	共	2014年	新潟体育学研究	渋倉崇行・松本裕史・笠巻純一・西田順一
25.大学女子運動選手のバーンアウト傾向とタイプA行動傾向との関連（査読付）	共	2013年	教育カウンセリング研究	田嶋恭江・伊達萬里子・松本裕史
26.Validity of the stages of exercise behavior change based on body composition by using DXA in female Japanese university students（査読付）	共	2013年	International Journal of Sport and Health Science	Hiroshi Matsumoto and Shigehiro Tanaka
27.体育系女子大学における設置科目と取得可能資格に対する学生ニーズの年次変化（査読付）	共	2013年	健康運動科学	中村哲士・小柳好生・松本裕史・三井正也
28.Chronic cough in patients with post-infectious cough―Three case reports	共	2012年	The Journal of the Hyogo Medical Association	Shigehiro Tanaka and Hiroshi Matsumoto
29.身体活動の増強を目的とした大学構内に	単	2012年	健康運動科学	松本裕史

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
おける階段利用促進ポスターの効果（査読付）				
30.大学スキー実習における学習者間の教え合いの活性化―バディシステムの導入とリフトでの学習カードの活用―（査読付）	共	2011年	健康運動科学	中西匠・松本裕史
31.移動手段としての階段利用の推奨が身体活動の強度および量に及ぼす影響―若年女性を対象とした予備的検討―（査読付）	共	2011年	健康運動科学	松本裕史・坂井和明・伊達萬里子・田嶋恭江
32.女子学生のストレスと健康状態に関する実態調査（査読付）	共	2010年	健康運動科学	伊達萬里子・樫塚正一・田嶋恭江・松本裕史・五藤佳奈・伊達幸博
33.女子大学生の身体不活動を規定する心理的要因の縦断的検討（査読付）	共	2008年03月	大学体育学	松本裕史・坂井和明・野老稔
34.地域健康運動教室参加者における運動有能感が運動実施の心理的側面に与える影響（査読付）	単	2008年03月	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	松本裕史
35.保健学習の内容に関する要望―女子大学生を対象にした調査から―（査読付）	共	2008年	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	松本裕史・中西匠
36.授業「キャンプ実習」に関する研究（3）―3ヶ年の基礎研究比較と総合評価―（査読付）	共	2007年03月	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	中村哲士・保井俊英・會田宏・小柳好生・松本裕史・田中繁宏・四元美帆・西坂珠美・野老稔
37.Waseda Affect Scale of Exercise and Durable Activity (WASEDA) における構成概念妥当性および因子妥当性の検討（査読付）	共	2004年	体育測定評価研究	荒井弘和・松本裕史・竹中晃二
38.若年女性における主観的健康感と健康行動セルフ・エフィカシーとの関連（査読付）	共	2004年	武庫川女子大学紀要―人文・社会科学編―	松本裕史・坂井和明・野老稔・田中繁宏・相澤徹・會田宏・小柳好生・中村真理子・四元美帆
39.運動実践者の継続意欲を高める運動指導について―フォーカスグループを用いた質的調査から―（査読付）	共	2004年	スポーツ産業学研究	松本裕史・村中亜弥・西村志穂・竹中晃二
40.運動有能感と定期的運動行動の関連について（査読付）	共	2004年	健康支援	松本裕史・竹中晃二

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
41.Motivational Profiles and Stages of Exercise Behavior Change（査読付）	共	2004年	International Journal of Sport and Health Science	Hiroshi Matsumoto and Koji Takenaka
42.「RP13によって速度を調整する歩行テスト」に伴う感情変化の検討（査読付）	共	2003年	臨床運動療法研究会誌	荒井弘和・岡浩一朗・伊藤拓・松本裕史・竹本朋代・松崎千明・中村菜々子・竹中晃二
43.運動場面における関係性と動機づけおよび精神的健康の関連（査読付）	共	2003年	ヒューマンサイエンスリサーチ	松本裕史・竹中晃二
44.自己決定理論に基づく運動継続のための動機づけ尺度の開発：信頼性および妥当性の検討（査読付）	共	2003年	健康支援	松本裕史・竹中晃二・髙家望
45.運動行動における自律性と運動継続意図の関連性の検討（査読付）	共	2003年	健康支援	松本裕史・竹中晃二
46.健康運動教室参加者の運動習慣と気分状態の関連（査読付）	共	2003年	ストレス科学研究	松本裕史・竹中晃二
47.運動行動における調整スタイルと行動変容段階の関係（査読付）	共	2002年	ヒューマンサイエンスリサーチ	松本裕史・竹中晃二
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.第25回日本未病システム学会学術総会ゲストスピーカー	単	2018年	第25回日本未病システム学会学術総会	第25回日本未病システム学会学術総会「生産年齢人口における未病～運動の日常化における新戦略」において、自己決定を支援する 身体活動・運動動機づけアプローチをテーマに講演を行った。
２．学会発表				
1.Motivational profiles for exercise and well-being in young Japanese women	単	2024年7月		Hiroshi Matsumoto
2.スポーツ指導者の統制的行動とアスリートのスポーツへの主体的な取り組みとの関連	単	2023年10月		松本裕史
3.Motivational profiles and exercise behavior change in young Japanese women	単	2023年6月		Hiroshi Matsumoto
4.Exercise motivation and physical activity among mothers with children in Japan	共	2021年9月		Hiroshi Matsumoto and Yoshifumi Tanaka
5.Initial Validity Evidence for the Psychological Need Satisfaction in	単	2020年9月		Hiroshi Matsumoto

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Exercise Scale (PNSE) among Japanese Adults				
6.Motivational profiles for exercise in Japanese adults: a self-determination theory perspective	共	2019年5月		Hiroshi Matsumoto and Yoshifumi Tanaka
7.Focus Group Study of Perceived Barriers to and Benefits of Physical Activity Among Sedentary Mothers With Young Children in Japan	共	2018年11月		Hiroshi Matsumoto, Yoshifumi Tanaka and Tamao Yanauchi
8.Psychometric Properties of the Japanese Version of the Controlling Coach Behaviors Scale in the Sport Context	共	2018年7月		Hiroshi Matsumoto, Nana Toyama, Takayuki Shibukura and Kunio Kono
9.大学授業におけるマインドマップの活用―健康・スポーツ系学生を対象にして―	共	2017年11月		松本裕史・戸山彩奈
10.Using floor sign to promote physical activity in Japanese women's University	共	2017年7月		Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida
11.Subjective assessment of exercise and physical activity (IPAQ-LF) in Japanese elementary school teachers and their relation to mental health: Testing a hypothetical model to management with stress experiences	共	2017年7月		Junichi Nishida, Hiroshi Matsumoto
12.Physical Activity Promotion Strategy for young Japanese Women through Stair Climbing to promote Environmental Sustainability	単	2016年11月		松本裕史 日本健康心理学会第29回大会国際委員会企画シンポジウム「Recent Advances in Health Psychology」シンポジスト
13.Focus group study	共	2015年7月		Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
of perceived barriers to and benefits of physical activity among sedentary young women in Japan				
14.What motivates Japanese adults to exercise? An application of Basic needs theory and Organismic integration theory	共	2014年10月		Hiroshi Matsumoto, Amy M. Crawford, Philip M. Wilson, and Diane E. Mack
15.Physical activity promotion strategy for Japanese young women using stair climbing as an environmental sustainability intervention	共	2014年3月		Hiroshi Matsumoto, Philip M. Wilson, and Diane E. Mack
16.Validation of the stages of exercise behavior change with low, moderate, and vigorous physical activity behavior in Japanese young women	単	2013年3月		Hiroshi Matsumoto
17.Promotion of Physical Activity Using Point-of-Decision Prompts in a Japanese Women’s University	共	2011年9月		Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida
18.Using Signs to Promote the Use of Stairs to Increase Physical Activity in Japanese Women’s University	共	2010年12月		Hiroshi Matsumoto, Junichi Nishida
19.環境保全活動を活用した階段利用促進介入	単	2010年11月		松本裕史
20.身体活動の増強を目的とした女子大学内における階段利用促進ポスターの効果	単	2010年11月		松本裕史
21.大学スキー実習におけるバディシステムが社会的スキルに及ぼす効果	単	2009年07月		松本裕史
22.Peak oxygen consumption and leptin,	共	2009年06月		Aya Yamada, Mariko Nakamura, Shigehiro Tanaka, Saimi Yamamoto, Toru Aizawa, Tetsushi Nakamura, Hiroshi Matsumoto, Mie Kitajima, Junji Meren, and Syoichi Kashizuka

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
adiponectin, HDL cholesterol, PAI-1 or APO-A in young female athletes.				
23.The effects of outdoor education programs on communication skill: focusing on several aspects of aggression in elementary children.	共	2009年06月		Jun-ichi Nishida, Kimio Hashimoto, Toshiharu Yanagi, Toshihiko Tsutumi, Hiroshi Matsumoto
24.Relationships between Psychological Need Satisfaction and Exercise Regulations in Japanese Adults: A Self-Determination Theory Perspective.	共	2009年06月		Hiroshi Matsumoto, Koji Takenaka
25.自己決定理論にもとづく身体活動促進プログラム	単	2008年11月		松本裕史
26.バディシステムを用いたスキー実習が女子大学生のコミュニケーションスキルに及ぼす影響	単	2008年10月		松本裕史
27.動機づけ段階別行動変容プログラムの開発	単	2007年10月		松本裕史
28.思春期女性の踵骨骨評価値に影響を与える因子の検討	共	2007年06月		十河美佳・相澤徹・松本裕史・會田宏・田中繁宏・有吉恵・木下真理子・葛間理代・徳家雅子
29.若年女性における身体活動を規定する心理的要因の検討.	単	2007年03月		松本裕史
30.女子大学生における競技活動と日常生活における身体活動との関連―大学女子競技選手は日常生活において身体不活動であるか？―.	共	2006年08月		松本裕史・會田宏・中村真理子
31.運動動機づけプロフィールと2年間に及ぶ運動継続に関する縦断的検討	共	2004年12月		松本裕史・竹中晃二・野老稔
32.A self-determination approach to the understanding of motivation among Japanese older Tai Chi practitioners	共	2004年03月		Hiroshi Matsumoto, and Koji Takenaka

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
33.運動動機づけプロフィールと運動行動の変化ステージ	共	2003年12月		松本裕史・竹中晃二
34.心疾患患者を対象者とした行動変容プログラム	共	2002年11月		水谷恵理子・松本裕史・葦原摩耶子・村中亜弥・竹中晃二
35.セルフ・マネジメント技法を用いた身体活動量増強のための介入研究	共	2002年11月		竹中晃二・松本裕史・綾千晶・青木真理
36.自己決定理論に基づく運動動機づけ尺度の開発―因子モデルの比較―	共	2002年10月		松本裕史・竹中晃二
37.Exercise motivational profiles in Japanese adults: A self-determination theory perspective	共	2002年08月		Hiroshi Matsumoto and Koji Takenaka
38.運動行動変容者に特徴はあるのか	共	2002年03月		松本裕史・竹中晃二
39.民間フィットネスクラブ会員における運動有能感に関する研究	共	2001年11月		松本裕史・竹中晃二
40.フィットネスクラブ新規入会者における運動行動の動機づけに関する研究―自律的動機づけに注目して―	共	2001年11月		松本裕史・竹中晃二
41.The effects of a behavior change program to Promote physical activity in Japanese middle-aged people	共	2001年10月		Mari Aoki, Koji Takenaka, Nanako Nakamura, Hiroshi Matsumoto and Chiaki Aya
42.Exercise motives and the stages of exercise behavior change in Japanese adults	共	2001年10月		Hiroshi Matsumoto, Koji Takenaka and Koichiro Oka
43.運動行動における動機づけと行動変容段階との関係―自己決定理論の応用―	共	2001年09月		松本裕史・竹中晃二
44.The effects of behavior change procedure on physical activity adherence in Japanese middle-aged people	共	2001年05月		Chiaki Aya, Koji Takenaka, Nanako Nakamura and Hiroshi Matsumoto
45.行動変容技法と運動による包括的プログラムの試み	共	2001年02月		中村菜々子・綾千晶・松本裕史・青木真理
46.Variations in self	共	2000年10月		Hiroshi Matsumoto and Koichiro Oka

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
-determination across the stage of change for exercise in Japanese adults				
47.行動変容技法と運動を組み合わせた包括的プログラムの試み	共	2000年09月		綾千晶・中村菜々子・松本裕史
48.自己決定理論を応用した運動動機づけ尺度開発の試み	共	2000年08月		松本裕史・竹中晃二・岡浩一朗
49.インストラクター・セルフエフィカシーに関する研究．―民間フィットネスクラブを対象にして―	共	2000年06月		松本裕史・岡浩一朗
50.Toward a new measure of motivation in exercise using self-determination theory approaches.	共	2000年04月		Hiroshi Matsumoto, Koji Takenaka and Koichiro Oka
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.行動経済学に基づくナッジを用いた女性の階段利用促進に関する実証的研究―メッセージの違いによる比較―，令和２年度健康・体力づくり事業財団健康運動指導研究助成研究成果報告書		2021年		
2.非運動習慣者を対象とした運動動機づけ支援方略の構築に向けた調査研究―量的・質的アプローチを用いた多面的分析―，平成28年度健康・体力づくり事業財団健康運動指導研究助成研究成果報告書，113-128.		2017年		
3.日本健康心理学会第29回大会での国際委員会企画シンポジウムのシンポジストとして英語による発表を行った．「Physical Activity Promotion Strategy for young Japanese		2016年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
Women through Stair Climbing to promote Environmental Sustainability」				
4.バディシステムを用いたスキー実習によるコミュニケーションの活性化に関する質的研究，平成22～24年度科学研究費・基盤（B）野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得―プログラム開発と因果モデルの構築―研究成果中間報告書Ⅱ，44-53.		2012年		
5.バディシステムを用いたスキー実習に用いるコミュニケーション促進ツールの検討，平成22～24年度科学研究費・基盤（B）野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得―プログラム開発と因果モデルの構築―研究成果中間報告書，56-61.		2011年		
6.バディシステムを用いたスキー実習が女子大学生のコミュニケーションスキルに及ぼす影響に関する予備的検討，平成19～21年度科学研究費・基盤（B）野外教育によるコミュニケーションスキル獲得と汎化―エビデンスに基づいた実践のための基礎的研究―研究成果中間報告書Ⅱ，57-61.		2009年		
7.女性運動選手における競技引退後の身体活動に関する質的研究―競技から健康づくりの運動へパラダイムシフトさせるための提言―，平成19年度文部科学省私学大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）生活習慣病オープン・リ		2008年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
サーチ・センター研究成果報告書，286-292.				
8.スキーに関するセルフ・エフィカシー尺度の作成，平成19～21年度科学研究費・基盤（B）野外教育によるコミュニケーションスキル獲得と汎化―エビデンスに基づいた実践のための基礎的研究―研究成果中間報告書，68-71.		2008年		
9.元大学女子運動選手における競技引退後の身体活動を規定する心理社会的要因―面接調査用質問票の開発およびその有用性の検討―，平成18年度文部科学省私学大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）生活習慣病オープン・リサーチ・センター研究成果報告書，346-356.		2007年		
10.Validation of the Stages of Exercise Change by Using Dual Energy X-ray Absorptiometry. 平成17年度文部科学省私学大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）生活習慣病オープン・リサーチ・センター研究成果報告書，249-253.		2006年		
11.女子運動選手における日常生活の身体活動に対する考え方，平成17年度文部科学省私学大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）生活習慣病オープン・リサーチ・センター研究成果報告書，244-248.		2006年		
12.大学時代における女性運動選手としての		2005年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
スポーツ経験が生活習慣病の発病リスクに及ぼす影響，平成16年度文部科学省私学大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）生活習慣病オープン・リサーチ・センター研究成果報告書，366-370.				
13.自己決定理論に基づく運動継続のための動機づけ尺度の開発：信頼性および妥当性の検討．平成15年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2，147-155.		2003年		
14.運動行動変容におけるセルフマネジメントスキル評価尺度の開発．平成15年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2，141-147.		2003年		
15.日本スポーツ心理学会第29回大会でのシンポジウムの指定討論者として，研究と現場の融合について現状と課題を示した．「スポーツ心理学は現場にいかに貢献できるのか？―研究と現場の融合を求めて―」		2002年		
16.運動実践者の継続意欲を高める運動指導のあり方に関する研究―運動習慣者を対象としたフォーカスグループインタビュー調査結果から―．平成14年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2，229-233.		2002年		
17.モチベーションを高める，逆戻りを予防する（特集 行動変化技法）スポーツメディシン，Vol.41，17-22.		2002年		
18.運動行動における逆戻り予防研究．平成13年度日本体育協会スポーツ医・科学研		2001年		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
究報告No.2, 81-87.				
19.自己決定理論に基づく運動の動機づけ研究. 平成13年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告No.2, 64-70.		2001年		
20.九州スポーツ心理学会第14回大会でのシンポジウム発表者として問題提起を行った。「運動アドヒアランス研究を生かすには. ―現場に役立つ研究を目指して―」		2001年		
６．研究費の取得状況				
1.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2025年		健康行動に対するヘルスリテラシーの効果解明と学生への新しい健康行動支援モデル構築
2.基盤（C）継続	単	2025年		運動動機づけの個性による身体活動支援の新規最適化方略：若年女性における縦断的検討
3.武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センター架橋横断的重点共同研究　新規　研究分担者	共	2024年		女子大学生のキャリア形成支援に用いるキャリア選択自己効力感尺度の開発
4.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2024年		健康行動に対するヘルスリテラシーの効果解明と学生への新しい健康行動支援モデル構築
5.基盤（C）継続	単	2024年		運動動機づけの個性による身体活動支援の新規最適化方略：若年女性における縦断的検討
6.基盤研究（C）新規 研究分担者	共	2023年		健康行動に対するヘルスリテラシーの効果解明と学生への新しい健康行動支援モデル構築
7.基盤（C）継続	単	2023年		運動動機づけの個性による身体活動支援の新規最適化方略：若年女性における縦断的検討
8.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2022年		学生の食生活改善を促す新規支援的環境要因の解明―シミュレーション解析を用いた検証
9.基盤研究（C）新規	単	2022年		運動動機づけの個性による身体活動支援の新規最適化方略：若年女性における縦断的検討
10.基盤研究（C）継続	単	2021年		女性におけるライフイベント時の身体活動に影響を及ぼす心理社会的要因の解明
11.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2021年		学生の食生活改善を促す新規支援的環境要因の解明―シミュレーション解析を用いた検証
12.基盤研究（C）新規 研究分担者	共	2020年		学生の食生活改善を促す新規支援的環境要因の解明―シミュレーション解析を用いた検証
13.令和2年度健康・体力づくり事業財団健康運動指導研究助成	単	2020年		行動経済学に基づくナッジを用いた女性の階段利用促進に関する実証的研究：メッセージの違いによる比較
14.基盤研究（Ｃ）継続	単	2020年		女性におけるライフイベント時の身体活動に影響を及ぼす心理社会的要因の解明
15.基盤研究（Ｃ）継続	単	2019年		女性におけるライフイベント時の身体活動に影響を及ぼす心理社会的要因の解明
16.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2018年		大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
17.基盤研究（Ｃ）継続	単	2018年		女性におけるライフイベント時の身体活動に影響を及ぼす心理社会的要因の解明
18.基盤研究（C）新規 研究分担者	共	2017年		大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
19.基盤研究（C）新規	単	2017年		女性におけるライフイベント時の身体活動に影響を及ぼす心理社会的要因の解明

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
20.基盤研究（C）継続 研究分担者	共	2016年		大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
21.平成28年度健康・体力づくり事業財団健康運動指導研究助成	単	2016年		非運動習慣者を対象とした運動動機づけ支援方略の構築に向けた調査研究―量的・質的アプローチを用いた多面的分析―
22.基盤研究（C）継続	単	2016年		若年女性の活動的ライフスタイル形成を意図した階段利用の促進に関する実証的研究
23.基盤研究（C）新規 研究分担者	共	2015年		大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
24.基盤研究（C）継続	単	2015年		若年女性の活動的ライフスタイル形成を意図した階段利用の促進に関する実証的研究
25.基盤研究（C）継続	単	2014年		若年女性の活動的ライフスタイル形成を意図した階段利用の促進に関する実証的研究
26.基盤研究（C）新規	単	2013年		若年女性の活動的ライフスタイル形成を意図した階段利用の促進に関する実証的研究
27.基盤研究（B）新規 研究分担者	共	2012年		野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得―プログラム開発と因果モデルの構築―
28.若手研究（Ｂ） 継続	単	2012年		行動科学に基づく若年女性のアクティブライフを構築するための階段利用促進介入の効果
29.基盤研究（B）継続 研究分担者	共	2011年		野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得―プログラム開発と因果モデルの構築―
30.若手研究（Ｂ） 継続	単	2011年		行動科学に基づく若年女性のアクティブライフを構築するための階段利用促進介入の効果
31.基盤研究（B）新規 研究分担者	共	2010年		野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得―プログラム開発と因果モデルの構築―
32.若手研究（Ｂ） 新規	単	2010年		行動科学に基づく若年女性のアクティブライフを構築するための階段利用促進介入の効果
33.基盤研究（B）継続 研究分担者	共	2009年		野外教育の体験活動によるコミュニケーションスキル獲得と日常生活への汎化の検討
34.平成22年兵庫体育・スポーツ科学学会学術研究助成 新規	共	2009年		スキーに関するセルフ・エフィカシーとスキー技術テストとの関連の検討
35.基盤研究（B）継続 研究分担者	共	2008年		野外教育の体験活動によるコミュニケーションスキル獲得と日常生活への汎化の検討
36.平成21年度全国大学体育連合大学体育研究助成 新規	単	2008年		体育の宿題が女子大学生の日常身体活動量および身体活動の心理学的変数に及ぼす影響
37.基盤研究（B）新規 研究分担者	共	2007年		野外教育の体験活動によるコミュニケーションスキル獲得と日常生活への汎化の検討
38.若手研究(B) 継続	単	2007年		活動的ライフスタイル形成のための動機づけ段階別行動変容プログラムの開発
39.平成18年度兵庫体育・スポーツ科学学会学術研究助成 新規	単	2006年		若年女性における身体活動を規定する心理・行動科学的要因の検討
40.平成18年度全国大学体育連合大学体育研究助成 新規	共	2006年		女子大学生の身体不活動を規定する心理・行動科学的要因の縦断的検討
41.若手研究（Ｂ） 新規	単	2006年		活動的ライフスタイル形成のための動機づけ段階別行動変容プログラムの開発

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2012年～現在	日本心理学会会員
2.2000年～現在	日本体育学会会員
3.1999年～現在	日本スポーツ心理学会会員
4.1999年～現在	日本健康心理学会会員